

一削入魂。

特別展
魂を込めた

円空 仏

— 飛騨・千光寺を中心に —

SPECIAL EXHIBITION
ENKŪ'S
BUDDHIST SCULPTURES AT
SENKŌJI AND IN THE HIDA REGION

2025年

2|1[土]⇒3|30[日]

PRESS RELEASE



三井記念美術館
Mitsui Memorial Museum

りょう めん すく な 両面宿儺像(千光寺)が 日本橋に初登場!

三井記念美術館の特別展「魂を込めた 円空仏 - 飛騨・千光寺を中心にして -」に、
岐阜県千光寺の「両面宿儺像」が展示される。
日本橋では初めての展示となる。

「両面宿儺」の名は、近年人気漫画への登場によって広く知られるようになった。その原点は、江戸時代の山林修行僧であり、前衛的な彫刻家として知られる円空の両面宿儺像(千光寺)にある。そしてさらに溯れば、日本最古の正史『日本書紀』に登場する。

「一つの胴体に二つの顔があり、」「左右に剣を佩き、四本の手は共に弓矢を使った。」「天皇の命に従わず成敗された」と、しかし飛騨地方では中央政権に対する地元の英雄としての伝承も残る。

改めて円空仏の特徴といえば、像の表面に荒々しい斧、鉋、ノミの削り痕をそのまま残す点にある。それは「一削り」ごとに魂を込め、呪文や名号を唱えた、平安時代からの「仏教儀礼」いわゆる「如法の仏」に似た作法と知られる。円空の両面宿儺像が、弓矢の代わりに斧を持つのは、斧が樹木を伐り、削り痕を残す道具の象徴であり、円空は両面宿儺像を円空自身の姿としたのであろう。

像の詳細については本リリース p. 4 を
ご参照ください。

両面宿儺坐像 千光寺
(画像提供: 東京国立博物館 Image: TNM Image Archives)



2025.1.14

特別展

魂を込めた 円空仏

—飛騨・千光寺を中心にして—

特別展

展覧会名 魂を込めた 円空仏 —飛騨・千光寺を中心にして—

Special Exhibition

Enkū's Buddhist Sculptures at Senkōji and in the Hida Region

会期 2025年2月1日(土)～3月30日(日)

開館時間 10:00～17:00(入館は16:30まで)

休館日 月曜日(但し2月10日、2月24日は開館)、2月23日(日)。

主催 三井記念美術館、読売新聞社

後援 岐阜県、高山市、下呂市、飛騨市

入館料 一般1,500(1,300)円/大学・高校生1,000(900)円/中学生以下無料

※70歳以上の方は1,200円(要証明)。

※20名様以上の団体の方は()内割引料金となります。

※リピーター割引:会期中一般券、学生券の半券のご提示で、2回目以降は()内割引料金となります。

※障害者手帳をご呈示いただいた方、およびその介護者1名は無料です(ミライロIDも可)。

会場 三井記念美術館 / Mitsui Memorial Museum

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町2-1-1 三井本館7階

東京メトロ銀座線「三越前」駅A7出口徒歩1分/東京メトロ半蔵門線「三越前」駅徒歩3分A7出口徒歩1分

/東京メトロ銀座線・東西線「日本橋」駅B9出口徒歩4分/

メトロリンク日本橋(無料巡回バス)乗降所「三井記念美術館」徒歩1分

読者からの
お問い合わせ先

050-5541-8600(ハローダイヤル)

ホームページ

<https://www.mitsui-museum.jp>

特別講演会

2025年3月15日(土) 13:00～15:50

「新円空論—日本彫刻史の円空とその魅力」

講師:清水 眞澄(三井記念美術館館長)

「日本の木彫像の樹種をめぐって—クスノキ・カヤ・ヒノキを中心に—」

講師:岩佐 光晴氏(成城大学教授)

会場:野村コンファレンスプラザ日本橋・5階大ホール

(東京都中央区日本橋室町2-4-3 日本橋室町野村ビル[YUITO]5階)

※事前申し込み要。申し込み方法など詳細については、当館ホームページをご覧ください。

土曜講座

2025年2月15日(土) 14:00～15:30

「円空の如く怒り、円空の如く笑いたし」

講師:大下 大圓氏(千光寺長老)

会場:三井記念美術館 レクチャールーム

※事前申し込み要。申し込み方法など詳細については、当館ホームページをご覧ください。

*開催内容を変更する場合がありますので、最新の情報は、当館ホームページまたはハローダイヤルにてご確認ください。また、展示室内の混雑を避けるため入場制限を行う場合があります。

報道関係の方からの
お問い合わせ先三井記念美術館広報事務局 担当:富樫、大原、松井 TEL:03-6275-0243 / 080-5443-1112
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-41 神保町SF1ビル206 E-mail:mitsui@annex-inc.jp

《展覧会の趣旨》

江戸時代の山林修行僧円空は、愛知、岐阜を中心に関東、北陸、さらに北海道までを巡り、各地に木彫の神仏像いわゆる「円空仏」を多数のこしました。現存するその数は約5000余体ともいわれます。円空は、材となる「樹木」に神仏を観想し、「樹神」の姿を求めて彫刻しました。それは現在ものこる生木に直接鉋を下ろした像高2メートルを越す飛驒・千光寺の金剛力士立像で明らかにされ、日本の彫刻史では平安時代の樹神信仰すなわち「立木仏」に源を求めることができます。

また円空は、樹木を「削る」こと自体に仏教儀礼の意味をもたせ、「削り痕」をそのままのこしています。それが「円空仏」として今日まで伝えられ、現代彫刻にも通じる造形の魅力にもなっています。

円空が樹木に「樹神」を観、魂を込めて「削った」神仏像は、奈良時代から伝えられる「飛驒の匠」の伝統を継承する岐阜県の飛驒が最もふさわしい舞台といえます。

《展示構成と主な出品作品》

*：広報用画像貸出作品

展示室1

樹神とノミの削り痕

円空は、樹木の生木に神仏の「樹神」を観て像を彫刻しました。それは平安時代の「立木仏」に遡り、現在も円空が造立した千光寺の金剛力士立像に見ることが出来ます。「樹神」は、生木を斧で「伐り」、鉋で「割り」、ノミで「削り」、材となってもそこに留まります。円空は、樹木を「伐り」「割り」「削る」行為と、像の表面に削った「ノミ痕」を露わにすることに、仏教の本質があるとしたに違いありません。



[図1] 迦楼羅(烏天狗)立像 千光寺

(画像提供:東京国立博物館 Image:TNM Image Archives)



[図2] 神像 小川神明神社



[図3] * 愛染明王坐像 霊泉寺

(画像提供:東京国立博物館 Image:TNM Image Archives)

展示室2

かきのもとのひとまろ

柿本人麻呂

柿本人麻呂は、7世紀後半の歌人、「万葉集」第一の歌人として知られています。また三十六歌仙の一人で、『古今和歌集』冒頭の紀貫之が記した仮名序文より、「歌の聖」とされています。平安時代末期からは、柿本人麻呂の肖像画を掲げ、和歌を献じて供養する「人丸影供」の歌会が催され、柿本人麻呂は「神格化」されるようになりました。

千光寺に遺されている円空の歌集『袈裟山百首』は、『古今和歌集』からの本歌取が九十首に及ぶとされ、円空にとって、柿本人麻呂は「歌聖」であり「歌の神」でありました。さらに、「人丸影供」の柿本人麻呂像は観音菩薩の応現身であるとされるので、円空が造立した柿本人麻呂像は神像であり観音菩薩であるともいえます。



[図4]*

柿本人麻呂坐像 東山神明神社

(画像提供:東京国立博物館 Image:TNM Image Archives)



展示室3

ごほうしん

護法神

千光寺（高山市）と飯山寺（高山市）には、総高2メートルを超える同様の構造・像容の作例が現存します。いずれも半裁した丸太を、さらに半分に割り、木心側を像の正面として各部を彫出しています。

[図5]*

護法神立像 千光寺

(画像提供:東京国立博物館 Image:TNM Image Archives)



[図6]

金剛神立像 飯山寺

(画像提供:東京国立博物館 Image:TNM Image Archives)

展示室4

慈悲と忿怒の相

仏教は多神教であり、多くの仏が存在します。それらを経典や図像集から身分や役割によって分類すると「如来」「菩薩」「明王」「天」に分けられるのが一般的です。また顔の表情は、「天」の女性神や童子形の像は別にして、「如来」「菩薩」が慈悲相、「明王」「天」が忿怒相に分けられます。しかしながら、円空の像は忿怒相の中にも慈悲がにじみ出てくる像があり、千光寺の両面宿儺坐像は、まさに慈悲と忿怒の相を併せ持つ像といえるでしょう。



〔図7〕＊
両面宿儺坐像 千光寺
(画像提供:東京国立博物館 Image:TNM Image Archives)



〔図8〕＊
如意輪観音菩薩坐像 東山白山神社
(画像提供:東京国立博物館 Image:TNM Image Archives)



〔図9〕＊
不動明王立像及び矜羯羅童子立像・制吒迦童子立像 千光寺
(画像提供:東京国立博物館 Image:TNM Image Archives)



〔図10〕＊
不動明王立像 素玄寺
(画像提供:東京国立博物館 Image:TNM Image Archives)

展示室4

かんのんしんこう

観音信仰

観音菩薩は慈悲と救済の菩薩です。『法華経』（『妙法蓮華経』の略称）観世音菩薩^{みせおんぼん}普門品第二十五は『観音経』として流布し、中国・日本では観音信仰の典拠となりました。三十三観音信仰は、同経に説かれる観音の三十三応現身^{おうげんしん}の数にあわせて、三十三の観音を集めて総称したものです。

また観音菩薩は、インドのヒンドゥー教の神に倣い、中国で隋・唐時代に多面、多眼、多臂^ひ像が造られるようになり、日本では奈良時代に十一面観音、千手観音などの観音菩薩像が造立されました。しかし円空にとって、横に張り出す多臂の像は一木の樹木の制限があるため、多臂の観音像の作例は非常に少ないです。



[図11]

三十三観音立像 千光寺

(画像提供:東京国立博物館 Image:TNM Image Archives)



[図12]

聖観音菩薩立像 荒原石仏



[図13] *

十一面観音菩薩立像 村上神社

展示室7

りゅうじん ほうじゅ

龍神と宝珠

インドの神話の蛇神が仏教に取り入れられると、蛇神が中国で龍になり、龍王、龍神が経典に説話として登場するようになります。また仏伝にも、雨を降らせる、洪水から護るなど水、雨、河などに関わる話が多くあります。特に『法華経』序品第一の冒頭には、ある時釈迦が王舎城の靈鷲山^{りょうじゅせん}で『法華経』を説いた時に、会衆として多くの菩薩、十大弟子などとともに八大龍王も参列していることが説かれています。

また『法華経』第十二提婆達多品^{だいぼつだつた ぼん}は、八歳の龍女すなわち女人が成仏する話で、宝珠が重要な役を果たしていることが知られています。さらに観音菩薩が宝珠を持つのも、宝珠が菩薩行の象徴ともみなされ、龍と宝珠と観音菩薩の関係が認められます。

なお、円空が描いた『大般若経』見返し絵の中には、龍と宝珠の図が多数登場しており、円空の『法華経』第十二提婆達多品に対する想いもうかがうことができます。



[图 14]

千手観音菩薩立像及び聖観音菩薩立像・龍頭観音菩薩立像 清峯寺
(画像提供:東京国立博物館 Image:TNM Image Archives)



[图 15]

十一面観音菩薩立像及び今上皇帝立像・善女龍王立像 桂峯寺
(画像提供:東京国立博物館 Image:TNM Image Archives)

展示室7

ほうじゅ

宝珠を持つ像

宝珠は、不可思議な功力をそなえた珠、宝石類の総称である摩尼を冠して「摩尼宝珠」といい、「如意宝珠」とも称されます。インドから中国、韓国、日本に伝わり、日本の古代寺院でも塔に安置されました。

一方、釈迦の遺骨として篤く信仰されてきた舍利は、あらゆる願いをかなえる不思議な珠、如意宝珠とみなされるようになりました。特に密教では舍利と宝珠を同体視するようになり、持物として表すことにより、尊像の効用を象徴する存在になりました。円空像に宝珠を持つ像が多いのは、円空がその意味を十分に理解して、自作の像に宝珠を付したためと思われます。



【図16】
弁財天坐像及び二童子立像 千光寺
(画像提供:東京国立博物館 Image:TNM Image Archives)



【図17】*
弁財天立像 飛驒国分寺
(画像提供:東京国立博物館 Image:TNM Image Archives)

展示室1・4

白山神と日本の神々

円空は『弥勒寺文書』の『妙法蓮華経』第四帖紙背(自筆)に諸神唱礼文として、「伊勢両太神宮」「八幡大菩薩」「春日大明神」の日本の代表的な三明神のほか、各地の山岳神二十四神の名を記しており、円空の山岳神への篤い信仰が見られます。

また円空は、樹木に宿る「樹神」が日本の神祇神だけでなく遠望する山岳の神、さらには民間信仰の神に及ぶとしています。特に円空が生まれ、多くの作例を遺す美濃からは、美濃(岐阜)、加賀(石川)、越前(新潟)にまたがり、古くから霊山として信仰されている白山の姿を拝することができ、多くの白山神像を遺しています。



【図18】*
白山妙理大権現坐像 小川神明神社



【図19】
八幡大菩薩立像 住吉神社

展示室5・7

ほとけの世界

仏像の種類は、如来・菩薩・明王・天部など種類も多いですが、円空仏の場合、樹木という材の制限から、手足の多い密教系の像などは少ないことが分かります。現存する円空のほとんどの作例は、銘文などが無いので、尊像名は尊像の特徴である手、足、顔、目などの数や持物、着衣、装身具などから判断して所蔵者、研究者、信仰者が後につけていると思われます。



[図21]
阿弥陀如来坐像及び
二十五菩薩立像 光円寺



[図20]*
薬師如来立像 薬師堂



[図22]
地藏菩薩坐像 中山地藏堂

特別展 魂を込めた 円空仏
—飛驒・千光寺を中心にして—

展覧会広報用画像について

展覧会の広報用貸出画像データ／読者プレゼント招待券をご希望される方は、下記ご確認の上お申し込みください。

- * 画像は展覧会の広報用としての使用に限らせていただきます。展覧会終了後の利用、また二次利用はお断りしております。
- * 画像掲載にあたっては、【記載クレジット】を必ずご記載ください。
- * Webサイトで掲載の場合は、必ず画像にコピーガードをかけてください。
- * 読者プレゼントの際には作品画像を掲載し、展覧会会期中にご紹介ください。またお手数ですが、招待券プレゼントの受付・発送などは貴社、貴編集部にてお願いいたします。
- * ご掲載紙・誌等は広報事務局までご送付ください。

〔貸出画像リスト〕 作品掲載にあたっては下記の情報をご明記ください	
図3 愛染明王坐像 霊泉寺	画像提供:東京国立博物館 Image:TNM Image Archives
図4 柿本人麻呂坐像 東山神明神社	画像提供:東京国立博物館 Image:TNM Image Archives
図5 護法神立像 千光寺	画像提供:東京国立博物館 Image:TNM Image Archives
図7 両面宿儺坐像 千光寺	画像提供:東京国立博物館 Image:TNM Image Archives
図8 如意輪観音菩薩坐像 東山白山神社	画像提供:東京国立博物館 Image:TNM Image Archives
図9 不動明王立像及び矜羯羅童子立像・制吒迦童子立像 千光寺	画像提供:東京国立博物館 Image:TNM Image Archives
図10 不動明王立像 素玄寺	画像提供:東京国立博物館 Image:TNM Image Archives
図13 十一面観音菩薩立像 村上神社	
図17 弁財天立像 飛驒国分寺	画像提供:東京国立博物館 Image:TNM Image Archives
図18 白山妙理大権現坐像 小川神明神社	
図20 薬師如来立像 薬師堂	
読者招待券	5組10枚まで受付 ※申し込み受付は 2025年1月31日まで

お申し込み方法

当館ホームページ「プレスの方へ」ページの申込フォームに必要事項を入力し、お申し込みください。

入力いただいたアドレスに広報事務局よりメールをお送りします。



三井記念美術館ホームページ「プレスの方へ」ページ
<https://www.mitsui-museum.jp/press/press.html>

プレス関係の方からの
お問い合わせ先

三井記念美術館広報事務局 担当:富樫、大原、松井 TEL:03-6275-0243 / 080-5443-1112
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-41 神保町SF1ビル206 E-mail:mitsui@annex-inc.jp